

## 子どもの村福岡を訪問して

子どもの村福岡は、家族と暮らせない子どもたちが、育ての親「育親」と家族を作り、地域に支えられながら育つところです。里親家庭で育った子どもや里親さんに話を聞き、子どもの立場から里親家庭と里親制度について考えていこうと取り組んできた市民団体や専門家、行政・企業が力を合わせて作り上げたものです。敷地（市有地）内には家が5軒とセンターがあり、現在3人の育親（20, 40, 60代の女性）がそれぞれの家に住み子どもを育てています。センターには村長さんほか専門家が常駐しサポートしています。月2回小児科医と臨床心理士が訪問し、親・子両方のケアをしています。これを地域にも開放し、地域との絆を何より大切にしています。今年4月の開村までには様々な困難があったそうですが、米一袋から家一軒まで、多くの善意に支えられ寄付によって運営されています。

「困難な状況にある子どもたちだけでなく、すべての子どもたちが幸せに育つ社会づくりにつながる」と、事務局局長の大谷順子さんが話してくださいました。



## 里親制度とは・・・

さまざまな事情で親が育てられない、虐待をしてしまう、そんな時、児童相談所で一時保護された子どもは、施設に入るか、里親に預けられます。できるだけ家庭に近い環境の中で育てられることが、子どもの成長のために望ましいと、里親制度が設けられています。千葉市児童相談所を訪ね、現状について伺いました。

子どもを預かる専門里親は5組で委託児童数は2名とのこと。委託が進まない理由としては、子どもの年齢や相性などで調整がつかないこともあるが、実の親が、里親ではなく施設入所を望むことが多いということでした。

里親の研修や交流会も行なわれているようですが、里親支援の充実や制度への理解・周知がまだまだ足りないようです。

## すべての子どもたちが幸せに育つ社会づくりを

### 不登校支援は安心できる居場所づくりから

千葉市の不登校の児童生徒（年間30日以上欠席）は、H.20年度791人（全国の小中学校では12万7千人）です。教育センターの相談やグループ活動、ライトポート（適応指導教室・市内に4ヶ所）、緑町中学校教育相談指導教室への通級など、様々な支援がおこなわれています。市は、「学校生活への復帰」を支援の目的としていますが、利用した200人（21年度）のうち学校復帰は8人、改善傾向は75人で、いまだたくさん子どもたちが苦しんでいる状況です。

川崎市では「学校に行けないで苦しんでいる子どもを学校教育の縛りから開放し、いたるところが学びの場だ」として、学校外に公設民営のフリースペースを作ったり、栃木県高根沢町でも、学校復帰を前提としない不登校対策に取り組んでいるそうです。

「不登校＝学校に适应できない」との考え方は子どもを傷つけます。あるがままの自分を信頼できる大人に認めてもらうことが大切です。安心して心を休ませ、自分らしさを取り戻して初めて子どもは学校へ行く気持ちが湧いてくるのではないのでしょうか。

不登校経験者の力も生かしながら、市として子どもの居場所作りに本気で取り組むよう、議会で求めました。

## 川崎市子ども夢パーク見学記

「子どもたち一人ひとりが大事にされなければならない」このあたりまえのことを実現するため川崎市子どもの権利に関する条例がつけられ、それを実現する場として2003年夢パークができました。

木登り・火おこし・どろんこ遊びなどができる冒険遊び場や、スポーツエリアやスタジオ、乳幼児や障がいをもった人と保護者のための部屋もあります。

また不登校児童生徒の居場所『フリースペースえん』もあり、20年近く子どもたちの居場所づくりを行ってきたNPO法人が市と協働で運営しています。ここでは学校外で多様に育ち学ぶことを保障し、楽器を弾いたり、本を読んだり、畑で野菜を作ったり、みんなで昼ご飯を作ったり、子どもたちは思い思いに過ごしていました。だれもが「生きている、ただそれだけで祝福される」そんな場をつくっていきたいという代表の西野博之さんにお話を伺いました。



## あるがままの自分を認めて・・・生きている、ただそれだけで祝福される場を

### お知らせ

◆親子三代夏祭り  
千葉踊りを一緒に踊りましょう!  
8月22日(日)午後6時半集合  
市民ネットワークちば中央事務所

◆歌おう語ろう憲法! 2010  
8月8日(日)11時半~19時半  
中央公園(紙芝居・バンド演奏他)  
フェスティバル2010実行委員会

◆平和の鐘つきと紙芝居  
8月15日(日)12時~光明寺にて  
終了後、中央ネット事務所にて、おしゃべりと紙芝居。(軽食つき300円)  
ちば・戦争体験を伝える会

◆谷津田で稲刈り  
9月18日(土)  
ちば環境情報センター  
TEL/FAX:043-223-7807



## 食育は学校給食の充実から

子どもたちの間に欠食や孤食、偏食などが増えてきていると言われており、食の乱れが懸念されています。こうした背景には、社会を取り巻く様々な状況の変化があると考えられますが、家庭が持っていた、食文化を継承し、子どもたちの健康を守る機能が弱まってきていることは確かです。家庭、学校、地域の連携が不可欠になっています。

特に、食育における学校給食の役割には期待がかかります。学校給食の充実は、取り組みやすく、低コストで効果を挙げられる食育の提案の一つと言えます。ただ、現状の給食には、栄養素の摂取に比重が置かれるあまり、おかしな組合せの献立があったり、パン食が多かったりなどの課題も感じています。伝統的な食文化を改めて見直して、献立はご飯を中心とした和食にし、地産地消を推進することが大切で、食育のより大きな力となるでしょう。

NPO法人  
お産子育て向上委員会

小林哲朗



料金受取人払郵便

千葉支店  
承認  
648

差出有効期限  
平成22年10月  
31日まで  
(切手不要)

郵便はがき

2608790

千葉市中央区中央 3-13-17

市民ネットワーク・中央 行



- ・子ども手当てについて  
(賛成、反対、どちらでもない)
  - ・使い方は  
(子どもの事にすぐ使う、  
子どもの事以外に使う、貯金)
- 対象者でない方でもご意見を

お名前 \_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_  
そのままでも届きますが、切手を貼ってくださいと助かります。  
(FAXで送信いただいても結構です。FAX 223-7880)